

「赤ちゃんはどいからやしてへるの?」

〜幼児期から始める性教育〜

一般社団法人長崎県助産師会 理事 森川 寿和美



皆さんは性についてどのように学んできましたか?

子どもからの質問にとまどったり、困った経験はありませんか? 今や、ネットやSNSで色々な情報が簡単に見られる時代です。性に関する情報は溢れています。小学生にでもなればスマホで性情報を検索しているかもしれません。「寝た子を起すのでは?」というご意見もいまだにあります。小さいときから性に対する正しい知識を段階的に学ぶことは、子ども自身が危険から身を守り、性行動にも慎重になると科学的にも証明されています。

「正しい知識」を伝えることが子どもの安全を守ることに繋がるのです。

聞かれたときがチャンス!!

ではいつからどのようにはじめたらよいのでしょうか...

子どもたちは3〜4歳ごろになると男女の体の違いに気づくことが多く、ある日、突然「赤ちゃんはどうやって生まれるの?」「どうしてわたしにはおちんちんがないの?」など質問を始めます。それは子どもにとってとても素朴な疑問です。まさにそのときが性教育を始めるチャンスです。チャン

スは何度でもやって来る。遅い早いはありません。興味や成長には個人差もあるので必ずしも質問があるとは限りません。そんなときはトイレトレーニングやお風呂に入るときなど、場面場面に応じた性教育ができます。例えば、性器の洗い方やトイレあとの拭き方・処理の方法などまた1年に1度の特別な日、お誕生日の日に、赤ちゃんを授かったときの嬉しい気持ちや生まれたときの感動を伝えるのも素敵な性教育と言えます。



場所であると話しています。

大切な場所の約束として「見ない・見せない」「触らない・触らせない」同意なく体に触られたときは「いや」といついていことを伝えていきます。

また、子どもが一人で行動するようになる前に「いかのおすし」を確認しておきましょう。

ついでに、**いか**がない、**の**らない、**お**おどえいさげ、**す**ぐにげる、**し**らせる



性に対して偏見がなくなっすべに取り組める幼児期こそ性教育の土台作りに大切な時期ではないでしょうか。正しい知識を子どもたちが身につけ、オープンに話せる環境を作ってあげられればと思っています。

性教育は、性の健康教育であり安全教育であり、人権教育です。大人も知らないことはたくさんあります。子どもと一緒に楽しく学んでみませんか?



「あなたが愛おしい」「あなたが大切」「あなたと会えて嬉しかった」など伝えられる言葉はたくさんあります。

「逃げなご」「怒いなご」「まかたなご」

子どもからの突然の質問に思わず「そんなことを聞くもんじゃありません」とか「知らない」「忙しいからあとで」などと答えてはいませんか?

何度質問しても怒られたり、はぐらかされてばかりだと子どもは質問してはいけないことなんだとインプットしてしまい「性に関することは聞いてはいけないこと」になっってしまう。



正しく伝えることはもちろん大事ですが「大人も知らないことがある」「大人も決して完璧じゃないよ」ということもときには見せていいのです。答えに困ったときは「お母さんも上手く答えられないから一緒にしらべてみよう」「絵本をみてみよう」など一緒に考えたり、勉強するののも一つの手段です。

「プライベートゾーン」と「いかのおすし」

保育施設での性教育で伝えていくことの中に危険なことから身を守る方法もあります。

体はすべて大切ですが、その中でも特に大切な場所として水着でかくれる場所は自分だけの大切な



プロフィール

- 助産師歴 32年 (病院勤務20年、助産院勤務12年)
- 長崎市在住
- 仕事... さくらの里助産院でのお産のサポート
ウィメンズヘルスクリニック勤務
子育て支援センターでの育児相談
ベビーマッサージ など
- 性教育活動 約20年 (保育園・幼稚園・小中高校など)

